

LabVIEW™ リリースノート

このリリースノートには、LabVIEW のインストール手順と、システム要件が記載されています。

LabVIEW のバージョンをアップグレードする場合は、LabVIEW 8.6 のインストールを始める前にアップグレードパッケージに添付されている『LabVIEW アップグレードノート』をお読みください。既存の VI を LabVIEW 8.6 用に変換する際には、いくつかの問題点にご注意ください。

LabVIEW をインストールする前にこのドキュメントの「[システム要件](#)」のセクションをお読みになり、「[LabVIEW 8.6 をインストールする](#)」のセクションの手順に従ってください。LabVIEW をインストールした後、LabVIEW の起動と使用の詳細について「[詳細情報](#)」のセクションを参照してください。

目次

システム要件	2
LabVIEW 8.6 をインストールする	6
Windows	6
Mac OS	8
Linux	8
LabVIEW アドオンをインストールする	10
アプリケーションビルダをインストールする	10
LabVIEW ライセンスをアクティブ化する (Windows)	10
LabVIEW、モジュール、ツールキットを評価する	11
シングルシートライセンスとボリュームライセンス	12
ハードウェアをインストールして構成する	12
Windows	12
Mac OS	13
Linux	13
詳細情報	13
LabVIEW クイックリファレンスカード	13
ni.com	13

システム要件

表 1 では、LabVIEW 8.6 の実行に必要なシステム要件を示しています。

表 1. LabVIEW 8.6 のシステム要件

プラットフォーム	メディア要件とシステム要件	主な留意点
すべてのプラットフォーム	<p>LabVIEW を使用するには最低 256 MB の RAM が必要です。ナショナルインストルメンツでは 1 GB 以上の RAM を推奨します。</p> <p>1024 × 768 ピクセル以上の画面解像度が必要です。</p> <p>LabVIEW でビルドしたアプリケーションをデプロイする場合、LabVIEW ランタイムエンジンによって最低でも 64 MB 以上の RAM と 800 × 600 ピクセル以上の画面解像度（デプロイするアプリケーションが画面を必要とする場合）が必要です。ナショナルインストルメンツでは、256 MB 以上の RAM、および 1024 × 768 ピクセル以上の画面解像度を推奨します。</p>	<p>LabVIEW および『LabVIEW ヘルプ』には、16 ビットのカラーグラフィックスが含まれています。必要なカラーパレット設定は 256 色以上ですが、16 ビットカラー以上を推奨します。</p> <p>LabVIEW の PDF 版マニュアルを表示するには、Adobe Reader 6.0.1 以降が必要です。</p> <p>LabVIEW は一時ファイルを保存するためにディレクトリを使用します。したがって、一時ディレクトリ用に数メガバイトのディスク空き容量を確保してください。一時ディレクトリの場所は、ツール→オプションを選択して、カテゴリリストからパスを選択して確認、変更できます。LabVIEW の実行が突然中断された場合、一時ディレクトリにファイルが残る可能性があります。このディレクトリから古いファイルを削除して、ディスク領域を解放してください。</p> <p>(Windows) デフォルトの一時ディレクトリは、C:\¥Documents and Settings¥User¥Local Settings¥Temp などのシステムの一時的ディレクトリです。</p> <p>(Mac OS) Mac OS X 10.4.x では、/var/tmp/folders.501/TemporaryItems (501 は各ログインの固有の番号)、Mac OS X 10.5.x では /private/var/folders/xxx/xxx/TemporaryItems (xxx は各ログインの保護されたランダムな名前) です。</p> <p>(Linux) デフォルトの一時ディレクトリは /tmp です。</p>

表 1. LabVIEW 8.6 のシステム要件 (続き)

プラットフォーム	メディア要件とシステム要件	主な留意点
Windows Vista/XP/2000	<p>LabVIEW を使用するには、Pentium III 以上、Celeron 866 MHz または同等のプロセッサが必要です。ナショナルインストルメンツでは、Pentium 4/M または同等のプロセッサを推奨します。ナショナルインストルメンツでは、LabVIEW の完全インストールには最低 1.6 GB のディスク容量を確保することを推奨します。</p> <p>LabVIEW でビルドしたアプリケーションをデプロイする場合、LabVIEW ランタイムエンジンによって、最低でも Pentium 200 MHz または同等のプロセッサが必要ですが、Pentium III 以上、Celeron 600 MHz、または同等のプロセッサを推奨します。LabVIEW ランタイムエンジンでアプリケーションまたはフロントパネルをリモート制御する場合は、92 MB 以上のディスク容量が必要です。LabVIEW でビルドするインストーラに LabVIEW ランタイムエンジンを組み込む場合、191 MB 以上のディスク容量が必要です。さらに他のインストーラを LabVIEW でビルドするインストーラに組み込むと、これ以上のディスク容量が必要です。</p>	<p>LabVIEW では、Windows NT/Me/98/95、Windows Server すべて、Windows XP x64 はサポートされていません。LabVIEW は Windows Vista x64 はサポートしています。</p> <p>Windows 2000 で LabVIEW または LabVIEW ランタイムエンジンを実行する場合は、Windows 2000 Service Pack 3 以降が必要です。</p> <p>『LabVIEW ヘルプ』、Measurement & Automation Explorer (MAX) の対話式ヘルプシステム、および NI サンプルファイナダを使用するには、Microsoft Internet Explorer 5.0 以降がインストールされている必要があります。</p> <p>Internet Explorer を使用して、リモートでフロントパネルを表示および制御するには、Internet Expolorer 5.5 Service Pack 2 以降を推奨します。</p> <p>.NET の関数およびアプリケーションを使用するには、.NET Framework 1.1 Service Pack 1 またはそれ以降が必要です。</p>

表 1. LabVIEW 8.6 のシステム要件 (続き)

プラットフォーム	メディア要件とシステム要件	主な留意点
Mac OS	<p>LabVIEW は、Mac OS X 10.4.0 以降で動作します。</p> <p>このバージョンの LabVIEW では、Intel プロセッサを搭載した Macintosh コンピュータだけがサポートされています。</p> <p>LabVIEW の最小インストールには 262 MB 以上、完全インストールには 828 MB を確保することを推奨します。</p> <p>LabVIEW アプリケーションビルダを使用するには、XCode 2.4.1 以降が必要です。</p>	<p>『LabVIEW Help』を表示するには、Firefox 1.0.2 以降または Safari 1.3.2 以降のバージョンをご使用になることを推奨します。</p>

表 1. LabVIEW 8.6 のシステム要件 (続き)

プラットフォーム	メディア要件とシステム要件	主な留意点
Linux	<p>LabVIEW を使用するには、X Window System サーバ (XFree86 または X11R6.org) が必要です。</p> <p>ディスク容量については、LabVIEW の最小インストールには 365 MB 以上、完全インストールには 651 MB を確保することを推奨します。</p> <p>LabVIEW は、カーネルバージョン 2.2.x、2.4.x、または 2.6.x が動作する Intel x86 プロセッサ用 Linux で動作します。LabVIEW では Pentium III、Celeron 866 MHz、または同等のプロセッサが要件ですが、ナショナルインスツルメンツでは Pentium 4/M、または同等のプロセッサを推奨します。</p> <p>LabVIEW は、Red Hat Enterprise Linux WS 3 以降、MandrakeLinux/Mandriva 10.0 以降、SuSE Linux 9.1 以降で動作します。また、LabVIEW は、GNU C Library バージョン 2.2.4 以降 (glibc または libc.so.6 と呼ばれます) を提供するその他の配布では、ハードウェアドライバのサポートなしで実行できます。</p>	<p>『LabVIEW Help』を表示するには、Mozilla 1.2 以降または Firefox 1.0.2 以降のバージョンをご使用になることを推奨します。</p> <p>LabVIEW では GNU C Library バージョン 2.2.4 以降が必要です。Linux ベンダーの多くは、ウェブサイトで一般的な Linux バージョン向けの最新の glibc rpm を提供しています。</p>

LabVIEW 8.6 をインストールする

詳細については、ナショナルインストゥルメンツのウェブサイト ni.com/jp/support を参照してください。

Windows

LabVIEW プラットフォーム DVD には、LabVIEW と以下のモジュール / ツールキットが含まれています。

埋め込み

- DSP モジュール
- FPGA モジュール
- Microprocessor SDK
- Mobile (モバイル) モジュール
- Real-Time Execution Trace (Real-Time 実行トレース) ツールキット
- Real-Time モジュール

画像集録と画像処理

- Vision Development (ビジョン開発) モジュール

工業用監視

- Datalogging and Supervisory Control (データロギング / 監視制御) モジュール
- Touch Panel (タッチパネル) モジュール

対話的データログと測定

- LabVIEW SignalExpress

モーションコントロール

- モーションアシスタント

レポート生成とデータベースコネクティビティ

- Database Connectivity (データベースコネクティビティ) ツールキット
- Internet (インターネット) ツールキット
- Report Generation Toolkit for Microsoft (Microsoft Office 用レポート作成) ツールキット

信号の処理、解析、演算

- Adaptive Filters (適応フィルタ) ツールキット
- Advanced Signal Processing (上級信号処理) ツールキット
- Digital Filter Design (デジタルフィルタ設計) ツールキット

制御とシミュレーション

- Control Design and Simulation (制御系設計 / シミュレーション) モジュール
- PID Control (PID 制御) ツールキット
- Simulation Interface (シミュレーションインタフェース) ツールキット
- System Identification (システム同定) ツールキット

ソフトウェア開発とデプロイメント

- アプリケーションビルダ
- Statechart (ステートチャート) モジュール
- VI アナライザツールキット

これらのアドオンを購入済みの場合は、LabVIEW プラットフォーム DVD からインストールし、アクティブ化できます。購入前にアドオンを評価するには、LabVIEW プラットフォーム DVD からインストールして 30 日間試用できます。

Windows 用 LabVIEW をインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. インストールを始める前に自動ウイルス検出プログラムを無効にしてください。一部のウイルス検出プログラムは、インストーラの実行を妨げる場合があります。
2. 管理者、あるいは管理者権限を持つユーザとしてログオンします。
3. LabVIEW プラットフォーム DVD の Disc 1 を挿入します。



メモ LabVIEW ソフトウェアキットには、DVD だけが含まれています。LabVIEW インストール CD が必要な場合は、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/jp/info にアクセスし、info code として 1vcd と入力してください。

4. **製品リスト**で、ライセンス購入済みの製品または評価する製品をすべて選択します。**インストール**をインストールすると、即時インストールが開始されます。**カスタムインストール**を選択すると、詳細なインストール設定を行うためのダイアログボックスが表示されます。



メモ 一部の LabVIEW 製品には、追加のシステム要件がある場合があります。**製品リスト**で各製品を選択して、説明に記載されている追加システム要件をインストール先のコンピュータが満たしているか確認してください。

5. ライセンスバージョンをインストールする場合は、ソフトウェアキットに記載されているシリアル番号を入力します。製品を評価するためにインストールする場合は、**シリアル番号**を入力する必要はありません。ソフトウェアキットのシリアル番号は、Certificate of Ownership に記載されています。ソフトウェアキットに Certificate of Ownership が含まれていない場合、シリアル番号は製品納品書または出荷ラベルに記載されています。



メモ 旧バージョンのシリアル番号を使用して製品をインストール、アクティブ化することもできます。

6. インストーラの指示に従って、LabVIEW と選択したモジュールまたはツールキットをインストールしてアクティブ化します。
7. インストール後、無効にしたウィルス検出プログラムを有効にします。
8. (オプション) LabVIEW プラットフォーム DVD に含まれていない LabVIEW アドオンをインストールします。詳細は、このドキュメントの「[LabVIEW アドオンをインストールする](#)」のセクションを参照してください。
9. (オプション) ナショナルインスツルメンツのハードウェアをインストールおよび構成します。詳細は、このドキュメントの「[ハードウェアをインストールして構成する](#)」のセクションを参照してください。
10. LabVIEW の起動および使用の詳細については、この章の「[詳細情報](#)」セクションを参照してください。



メモ Windows XP Service Pack 2 または Windows Vista を使用している場合は、LabVIEW または NI サンプルファインダを初めて起動すると **Windows セキュリティの重要な警告**ダイアログボックスが表示されます。**ブロックする**オプションを選択すると、LabVIEW VI サーバ、LabVIEW ウェブサーバ、その他の LabVIEW で開発されたすべてのサーバがリモートコンピュータからの接続要求を受け取ることができなくなります。LabVIEW の機能を変更することなく起動できるようにコンピュータを構成するには、**ブロックを解除する**オプションを選択してください。この問題に関する詳細な説明を参照するには、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/jp/info にアクセスし、info code として expm69 と入力してください。

すでにインストールされている LabVIEW を修正したりアンインストールするには、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」で **National Instruments ソフトウェア**を選択します。「変更と削除」ボタンをクリックすると、ナショナルインスツルメンツのソフトウェアのリストが表示されます。リストから追加または削除する個々のコンポーネントまたはアンインストールする製品をします。複数の製品を削除するには、<Shift> キーまたは <Ctrl> キーを押しながら製品を選択します。**アンインストール**ボタンをクリックすると、選択したすべての製品が削除されます。

Mac OS

Mac OS 対応 LabVIEW をインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. インストールを始める前に自動ウイルス検出プログラムを無効にしてください。一部のウイルス検出プログラムは、インストーラの実行を妨げる場合があります。
2. LabVIEW 8.6 インストール CD を挿入します。
3. 適切なインストールプログラムを実行します。

LabVIEW 8.6 のインストールでは、以下のインストールのタイプが有効です。

- **Easy Install**—LabVIEW、NI-488.2 ドライバ、NI-VISA ドライバを含む、すべての LabVIEW 8.6 ファイルをインストールします。これは LabVIEW のデフォルトのインストールです。
 - **Custom Install**—このオプションを選択すると、インストールするファイルを選択できます。Custom Install を選択するには、**Installation Type** ページで **Customize** ボタンをクリックします。LabVIEW 8.6 の実行に必要な一連の中核となる LabVIEW ファイルをインストールするには、**LabVIEW 8.6** コンポーネントを選択する必要があります。
4. 画面に表示される指示に従ってください。
 5. インストール後、無効にしたウイルス検出プログラムを有効にします。
 6. (オプション) LabVIEW アドオンをインストールします。詳細は、このドキュメントの「[LabVIEW アドオンをインストールする](#)」のセクションを参照してください。
 7. (オプション) ナショナルインスツルメンツのハードウェアをインストールおよび構成します。詳細は、このドキュメントの「[ハードウェアをインストールして構成する](#)」のセクションを参照してください。
 8. LabVIEW の起動および使用の詳細については、この章の「[詳細情報](#)」セクションを参照してください。

デフォルト以外の場所に LabVIEW をインストールすることはできませんが、インストールした後で LabVIEW 8.6 ディレクトリを移動することはできます。LabVIEW 8.6 ディレクトリをデフォルト以外の場所に移動した場合、その LabVIEW 8.6 ディレクトリをデフォルトの場所に戻さない限り、ディレクトリのアンインストールおよび削除は行われません。

LabVIEW 8.6 をアンインストールするには、Terminal シェルからインストール CD 上の `Uninstall.sh` シェルスクリプトを実行します。スクリプトの指示に従って、LabVIEW をアンインストールするためにファイルを削除します。LabVIEW 8.6 ディレクトリに追加または変更したファイルを保持するには、LabVIEW 8.6 をアンインストールする前にそれらのファイルを別の場所に保存してください。

Linux

Linux 対応 LabVIEW をインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. `root` でシステムにログインします。
2. LabVIEW 8.6 インストール CD を挿入します。`mount /mnt/cdrom` コマンドで CD をマウントします。システムによっては、CD が自動的にマウントされます。
3. CD をマウントしたディレクトリに現在のディレクトリを変更するには、次のコマンドを入力します。

```
cd /mnt/cdrom
```
4. インストールスクリプトを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
sh ./INSTALL
```

- (オプション) LabVIEW アドオンをインストールします。詳細は、このドキュメントの「[LabVIEW アドオンをインストールする](#)」のセクションを参照してください。
- (オプション) ナショナルインスツルメンツのハードウェアをインストールおよび構成します。詳細は、このドキュメントの「[ハードウェアをインストールして構成する](#)」のセクションを参照してください。
- LabVIEW の起動および使用の詳細については、この章の「[詳細情報](#)」セクションを参照してください。

INSTALL スクリプトは、LabVIEW を `/usr/local` ディレクトリにインストールします。また、このスクリプトはオプションで、NI-VISA および NI-488.2 ドライバのインストールスクリプトを実行します。INSTALL スクリプトは、`.rpm` 形式をサポートしているシステムにインストールする場合は `rpm` を使用し、その他のシステムに直接インストールする場合は `rpm` アーカイブを解凍します。また、Red Hat やその他の `rpm` ベースシステムの `rpm` (または GUI `rpm` ベースのインストール用ツール) を使用するか、`rpm` が存在しないシステムでは LabVIEW インストール CD の `bin` ディレクトリにあるユーティリティを使用して、手動でインストールすることもできます。

デフォルトの場所に Netscape または Mozilla をインストールした場合、LabVIEW のインストールプログラムによってブラウザプラグインが自動的にインストールされ、ウェブブラウザを使用してフロントパネルをリモート表示 / 制御できるようになります。ブラウザプラグインを手動でインストールするには、LabVIEW ランタイムエンジンをインストールし、`/usr/local/lib/LabVIEW-8.6/LV86NPlugin.so` を `/usr/lib/netscape/plugins/`、`/usr/lib/mozilla/plugins/`、`/usr/lib/firefox/plugins/` などのブラウザプラグインディレクトリにコピーします。

カスタムインストールの手順やその他の情報については、`/mnt/cdrom` にある `README.html` または `README.txt` ドキュメントを参照してください。

Linux での一般的な LabVIEW 起動エラー

Linux 対応 LabVIEW の起動時に発生する可能性のある一般的なエラーを以下の表に示します。

エラー	原因 (推定) / ソリューション
Xlib: connection to :0.0 refused by server	<p>原因 (推定) — ウィンドウを開く権限のないユーザが、ディスプレイサーバ上で LabVIEW を起動しようとしています。通常、<code>root</code> (スーパーユーザ) など、一時的に異なるユーザ名で <code>su</code> コマンドを実行した後に発生します。</p> <p>ソリューション — <code>su</code> コマンドを終了して、ログインユーザとして LabVIEW を起動するか、<code>xhost</code> または <code>xauth</code> コマンドを使用してディスプレイサーバ上にウィンドウを開く権限を取得します。</p>
client is not authorized to connect to server	
internal error during connection authorization check	

Linux 対応 LabVIEW の起動時に発生する可能性がある上記以外のエラーについては、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/jp/support を参照してください。

LabVIEW アドオンをインストールする

ツールキットの一部のバージョンは LabVIEW 8.6 で動作しません。互換性がないツールキットをインストールすると、一部のツールキット機能や LabVIEW が不正な動作をする可能性があります。LabVIEW プラットフォーム DVD からインストールするモジュールまたはツールキットはすべて LabVIEW 8.6 と互換性があります。このセクションでは、LabVIEW プラットフォーム DVD に含まれていないアドオンをインストールする方法について説明します。

LabVIEW アドオンをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 各 LabVIEW アドオンと LabVIEW の現行バージョンの互換性を確認するには、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/jp/info で info code として `compat` と入力してください。
2. インストールを始める前に自動ウイルス検出プログラムを無効にしてください。一部のウイルス検出プログラムは、インストーラの実行を妨げる場合があります。
3. LabVIEW アドオンのインストール CD を挿入し、画面に表示される指示に従います。
4. インストール後、無効にしたウイルス検出プログラムを有効にします。

ナショナルインスツルメンツのアドオン製品の詳細については、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/labview/ja/family を参照してください。

アプリケーションビルダをインストールする

(Windows) アプリケーションビルダは、LabVIEW のインストール時に自動的にインストールされます。LabVIEW プロフェッショナル開発システムをアクティブ化すると、アプリケーションビルダが自動的にアクティブ化されます。LabVIEW ベースパッケージまたは LabVIEW 開発システムをアクティブ化した場合は、アプリケーションビルダを別途購入してアクティブ化する必要があります。

(Mac OS と Linux) アプリケーションビルダは、LabVIEW プロフェッショナル開発システムのインストール時に自動的にインストールされます。LabVIEW ベースパッケージまたは LabVIEW 開発システムをインストールした場合は、アプリケーションビルダを別途購入する必要があります。

アプリケーションビルダは、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/jp/info で info code として `exd8yy` と入力すると表示されるアップグレードアドバイザから購入できます。

LabVIEW ライセンスをアクティブ化する (Windows)



メモ (Mac OS と Linux) LabVIEW をアクティブ化する必要はありません。

ナショナルインスツルメンツでは、評価版ソフトウェアのサポートの向上、ソフトウェアの機能拡張、大企業におけるライセンス管理のサポートを目的としてアクティブ化を使用しています。ナショナルインスツルメンツのソフトウェアライセンスの詳細については、ナショナルインスツルメンツのウェブサイトの ni.com/activate のページで、よくある質問、リソース、技術サポートに関する情報を確認してください。

購入済みの LabVIEW、モジュール、ツールキットのライセンスは、インストール中にアクティブ化できます。インストールした各 LabVIEW、モジュール、ツールキットに対して有効なライセンスをアクティブ化しないと、それらの製品は評価モードで実行されます。評価期間は、製品のインストール後に初めて製品を起動した日から 30 日間です。評価期間の終

了後に LabVIEW を続けて使用するには、有効な LabVIEW ライセンスをアクティブ化する必要があります。

製品のライセンスをアクティブ化するには、ソフトウェアキットに含まれている Certificate of Ownership に記載されているシリアル番号を使用します。ソフトウェアキットに Certificate of Ownership が含まれていない場合、シリアル番号は製品納品書または出荷ラベルに記載されています。旧バージョンのシリアル番号を使用して製品をインストール、アクティブ化することもできます。以下の方法で LabVIEW ライセンスをアクティブ化できます。

- インストール時に、インストールとアクティブ化の処理が完了してプロンプト表示された際にシリアル番号を入力します。
- 評価モードで LabVIEW を起動した後、**LabVIEW** ダイアログボックスで**製品をアクティブ化**ボタンをクリックします。
- LabVIEW を評価モードで実行中に**ヘルプ**→**LabVIEW コンポーネント**をアクティブ化を選択するか、または**スタート**→**すべてのプログラム**→**National Instruments** → **NI License Manager** を選択して NI License Manager を起動します。ライセンスのアクティブ化は、LabVIEW を再起動するまで有効になりません。

インストール時に LabVIEW、モジュール、ツールキットをアクティブ化しないと、LabVIEW の起動時にアクティブ化を促す画面が表示されます。すべての LabVIEW 製品のライセンスをアクティブ化した後は、この画面は表示されなくなります。

LabVIEW、モジュール、ツールキットを評価する

30 日間の無償評価期間中は、LabVIEW プロフェッショナル開発システムで使用可能なすべてのツール、VI と関数、ヘルプ、サンプル、ほとんどのモジュールとツールキットにアクセスすることができます。

モジュールとツールキットは、評価期間が終了すると、以下の操作が実行できなくなります。

- モジュールまたはツールキットから VI を実行する。
- モジュールまたはツールキットから VI を使用する VI を実行する。
- モジュールまたはツールキットからの VI を使用する VI を実行可能ファイルまたは共有ライブラリに作成する。
- モジュールまたはツールキットによってインストールされたメニュー、ツール、パレットにアクセスする。

評価用にモジュールまたはツールキットをインストールすると、モジュールまたはツールキットのヘルプがインストールされます。モジュールまたはツールキットのヘルプは、30 日間の評価期間を過ぎた後もインストールされたまま残ります。また、NI サンプルファインダには、30 日間の評価期間が経過した後もすべてのモジュールまたはツールキットが表示されます。モジュールまたはツールキットをアンインストールして、ヘルプとサンプルをアンインストールする必要があります。

LabVIEW の評価モードでは、プロフェッショナル開発システムの完全な機能を使用できません。LabVIEW ライセンスを購入してアクティブ化すると、購入したエディションの完全な機能が使用できます。したがって、評価版でプロフェッショナル開発システム固有の機能を使用する VI を作成した場合、その後開発システムを購入してアクティブ化すると、プロフェッショナル開発システムの機能を使用する VI は破損します。

シングルシートライセンスとボリュームライセンス

LabVIEW には、シングルシートライセンスとボリュームライセンスの両方のライセンスがあります。シングルシートライセンスでは、LabVIEW を 1 人のユーザが使用できます。シングルシートライセンスでは、製品を 1 台のコンピュータにインストールして複数のユーザで使用したり、1 人のユーザが 3 台までのコンピュータで使用できます。ボリュームライセンスは、同じ製品を 5 シート以上購入した場合に取得でき、ボリュームライセンス契約とボリュームライセンスソフトウェアが必要となります。LabVIEW を使用する各シートには、ライセンスサーバからの有効なライセンスが必要です。シングルシートライセンスとボリュームライセンスの詳細については、ナショナルインストルメンツのウェブサイト ni.com/license を参照してください。

ハードウェアをインストールして構成する

LabVIEW ソフトウェアをインストールすると、ナショナルインストルメンツのハードウェアの使用に必要なドライバをインストールできます。ナショナルインストルメンツのすべてのデバイスには、デバイスに必要なドライバが付属しています。LabVIEW 付属のドライバとデバイス付属のドライバでは、バージョンが異なる場合があります。LabVIEW は、システムのデバイスをサポートする最新のドライバと最も互換性があります。NI-DAQ 7.0 以降のバージョンを使用している場合、ご使用のシステムのデバイスに使用するドライバのバージョンの詳細については『NI-DAQ Readme』を参照してください。



メモ ナショナルインストルメンツでは、デバイスドライバを定期的に更新しています。最新のドライバをダウンロードするには、ナショナルインストルメンツのウェブサイト ni.com/jp/info にアクセスし、info code として `exyckh` と入力してください。

デバイスドライバのインストールが完了したら、ナショナルインストルメンツのハードウェアを取り付け、構成します。

Windows

NI デバイスドライバメディアには、ナショナルインストルメンツのハードウェアに必要なドライバとその他のソフトウェアが含まれています。MAX を使用して、デバイスが認識されていることの確認、アクセサリやデバイスの設定の構成、信号の集録や生成機能などのデバイス機能をテストするためのテストパネルの実行を行います。MAX を起動するには、

スタート→すべてのプログラム→National Instruments→Measurement & Automation を選択するか、デスクトップ上の **Measurement & Automation** アイコンをダブルクリックします。NI-DAQ 7.4 以降のバージョンを使用している場合、MAX を使用して DAQ デバイスを構成する詳細については、『NI-DAQ 7.x 用 DAQ クイックスタートガイド』を参照してください。NI-DAQ7.5 以降を使用している場合は、『DAQ スタートアップガイド』を参照してください。

従来型 NI-DAQ (レガシー) または NI-DAQmx のどちらを使用しているかによって、仮想チャンネルを構成する方法が異なります。これらの機能の詳細については、『LabVIEW ヘルプ』の **目次** タブで **LabVIEW スタートアップガイド→DAQ 入門** のセクションを参照してください。

Mac OS

LabVIEW インストーラでは、デフォルトで GPIB インタフェース用に NI-VISA ドライバと NI-488.2 ドライバが自動的にインストールされます。



メモ (Mac OS) LabVIEW では、現時点で NI-DAQmx ドライバソフトウェアを完全にサポートしていません。NI-DAQmx Base には、Mac OS 用の NI-DAQmx の機能のサブセットが含まれています。NI-DAQmx Base をダウンロードするには、ナショナルインスツルメンツのウェブサイト ni.com/jp/info にアクセスし、info code として `exf8fb` と入力してください。

Linux

LabVIEW インストーラでは、GPIB インタフェース用の NI-VISA ドライバと NI-488.2 ドライバを選択することができます。選択したドライバは LabVIEW インストーラによって自動的にインストールされます。



メモ LabVIEW では、GPIB-1014 シリーズ (VME) デバイスまたは初期の GPIB-SCSI ボックスはサポートされていません。ただし、GPIB-SCSI-A ボックスは LabVIEW でサポートされています。

Linux 用 NI-DAQmx では、いくつかのナショナルインスツルメンツ製 PXI、PCI、SCXI データ集録デバイスがサポートされています。サポートされるデバイスの一覧は、『NI-DAQmx Readme for Linux』に記載されています。Linux 用 NI-DAQmx ドライバをインストールした場合は、`/usr/local/natinst/nidaqmx/docs/ConfigurationGuide.html` で『NI-DAQmx for Linux Configuration Guide』でナショナルインスツルメンツ DAQ デバイスのテストと構成の方法を参照してください。

Linux 用 NI-DAQmx Base では、いくつかのナショナルインスツルメンツ製 USB データ集録デバイスがサポートされています。サポートされるデバイスの一覧は、『Readme for NI-DAQmx Base』に記載されています。ドライバのドキュメントは、LabVIEW を `/usr/local/natinst/nidaqmxbase/documentation` ディレクトリにあります。NI-DAQmx Base の詳細については、『LabVIEW Help』を参照してください。

詳細情報

LabVIEW の新機能、プログラミング概念、操作手順、既知の問題などについては、以下のリソースを参照してください。

LabVIEW クイックリファレンスカード

『LabVIEW クイックリファレンスカード』には、インストール方法から高度な開発まで、LabVIEW のさまざまな使用状況に即して使用できるリソースが記載されています。たとえば、『LabVIEW スタートアップ』マニュアル、『LabVIEW アップグレードノート』、『LabVIEW ヘルプ』、その他の印刷リソースなどが紹介されています。

ni.com

サンプル VI やディスカッションフォーラムなどのウェブリソースには、ni.com/labviewzone からアクセスできます。

National Instruments、NI、ni.com、および LabVIEW は National Instruments Corporation (米国ナショナルインストルメンツ社) の商標です。National Instruments の商標の詳細については、ni.com/legal の「Terms of Use」セクションを参照してください。本文中に記載されたその他の製品名および企業名は、それぞれの企業の商標または商号です。National Instruments の製品を保護する特許については、ソフトウェアに含まれている特許情報 (**ヘルプ>特許情報**)、メディアに含まれている patents.txt ファイル、または ni.com/patents のうち、該当するリソースから参照してください。